

第40号

(2021年5月10日発行)

発行: 中央大学学会 出版白門会

CONTENTS

(お名前は敬称略)

▽ 2021 年度新年会報告	1
▽ 2021 年新春講演会報告	2
…丹田公和	
▽ 白門同窓生の本	3
▽ 第 97 回箱根駅伝応援報告	3
▽ 寄稿「コロナ禍における我が社の報告」	3
…北村信治	
▽ 新型コロナ“禍中”の能楽鑑賞会	4
…丹田公和	
▽ 出版白門会情報共有について	4
▽ 告知板	4
▽ 編集後記	4

出版白門会の関連行事予定

- ① 会報発行 5 月 10 日
- ② 第 21 回 出版白門会総会
7 月中旬
会場: コロナ禍を鑑み紙面開催を予定
※後日、開催内容を書面にてお送りいたします。
- ③ 街歩き企画 秋
※詳細が決まり次第、HP と会員メールにてご案内いたします。
- ④ ホームカミングデー
秋 多摩キャンパス
※詳細は HP でわかり次第ご案内いたします。
- ⑤ 第 21 回能楽鑑賞会 (予定)
日時: 12 月 11 日 (土)
12 時開場
13 時開演
会場: 国立能楽堂
内容: 狂言 伯母ヶ酒 (おばがさげ)
大藏彌太郎 (大藏流)
能 巻絹 (まきぎぬ)
佐野由於 (宝生流)
※詳細は次号会報にてお知らせいたします。
■行事に関するお問い合わせは、下記メールでご連絡ください。
E-mail: pub.hakumon@gmail.com
なお、上記記事のほか、皆さまの仕事に役立つ企画、あるいは懇親の企画を検討中です。

出版白門

● 出版界に出版白門の知恵と情熱を! ●

●基本方針

1. 会員ニーズに応える活動による、会員満足度の向上
2. 中央大学、学会、他支部との連携強化
3. 会費徴収促進による、財政の健全化

2021 年新年会報告

2020 年の 1 月に国内初の新型コロナウイルス感染症の患者が確認されてから、1 年が経過したが、依然終息に向かう気配はなく、東京、神奈川、埼玉、千葉に 2 度目の緊急事態宣言が発出される中、1 月 22 日(金)19 時より ZOOM を使った初のオンライン新年会を開催した。ZOOM 初心者にも分かりやすく、1 月に発行した会報に参加方法を掲載するなど、事前の周知を図ったが、参加者は 11 名に留まった。

リアル新年会と同様、土屋会計監査のリードによる校歌唱和で、オンライン新年会はスタートした。第 1 部は、昭和 57 年経済学部卒、現在岐阜聖徳学園大学看護学部特任教授の藤井輝明氏を岐阜よりお招きし、「今を生きる」との演題で自らの半生、母校中央大学への提言など

を熱く語って戴いた。(内容詳細は 2 頁)

第 2 部の懇親会は、風間会長から「コロナに負けず、明るい一年にしていこう」との挨拶と乾杯で始まった。オンラインの乾杯で、グラスの触れ合う音こそなかったが、画面の中に、参加者の笑顔が弾けた。懇親会には、講師の藤井氏にも参加いただき、参加者からの質問に答えたり、新たな出版について相談を行ったりと、大いに盛り上がり、名残を残しつつ、一戸理事の中締めで、初のオンライン新年会は幕を閉じた。



リモート講演会講師の藤井輝明氏

第 21 回出版白門会総会について

昨年来続いている「コロナ禍」を鑑み、苦渋の決断ではございますが、7 月に開催予定の第 21 回出版白門会総会は「紙面開催及び決議」という形をとらせていただきます。

一日も早く「コロナ禍」が収まり平穏な日常が戻って来ることを切に願ってお

ります。

会員の皆様もくれぐれも体調管理にはご留意いただき、「コロナ禍」明けの 2022 年新年会・新春講演会、そして第 22 回出版白門会総会開催時には大いに語り合い白門魂の下、祝宴を開催出来たらと思います。

コロナ禍が衰える兆しも無く、世の中が感染防止対策のため自粛ムードに覆われている1月22日、出版白門会は2021年度の新年会と新春講演会をオンラインにより実施した。講演は「今を生きる」という演題で、講師には中央大学経済学部57年卒で、現・岐阜聖徳学園大学看護学部特任教授の藤井輝明氏をお迎えした。

現在63歳の同氏は2歳の時に突然顔の右半分が腫れてくる、海綿状血管腫という難病を患い、そのせいで小学1年の時は、「化け物は学校に来るな」と言われ、また、親の話の受け売りだろうが、小学1年の子供達に藤井君は「感染症」だから病気がうつると言われるなど、ひどいイジメにあった。2年の時に国立の桐朋学園に転校し、理解ある学校と先生のお陰でいじめも無く、学校生活を終える事が出来、その後は、母親が常日頃言っていたように「自分の顔は人にはない特徴であり、マイナスではなく強みである」と思うようになったという。

藤井氏の父親は中央大学の夜間部出身で東京都の職員だった。大変勤勉で勉強家だったという。それは中大生の特質のようで、因みに、都の職員には中大出身が一番多く、現在の都の教育長も中大出身であり、40年前の東京都庁は局長職、次長職の半分は中大出身だったとのこと。そのような縁もあり、藤井氏は中大に入学する。大学では駿河台校舎と78年に移転した多摩キャンパスの両方を経験した。駿河台時代は学生運動の影響でロックアウトも経験した。そんな中でも、中大は勉強熱心な生徒も多く、駿河台の図書館は24時間開いていた。入学すると金田昌司教授に声を掛けられ先生の教養ゼミに入る。先生自身、体にハンディキャップがあった事もあるのだろうか、英語とドイツ語の講読を4年間受講する間、大変励まされ続けたという。当時はこのような勉強が役に立つのかと思っていたが、後に名古屋大学の医学部博士課

程を受験する時に、この4年間のドイツ語講読が役に立った。色んな体験をしておく、役に立たないと思っていた事は後で役に立つことを経験する。「中大スピリッツは「弱音をハクモンカイ（白門会）」、マイナスと思えることも実はマイナスではなく、後々プラスになる。そんな多様な考え方を中大が教えてくれた。大学が今の自分を支えてくれている。中央大学に入って良かったと感謝している。

卒業後は、筑波大学、名古屋大学、東京大学の大学院等で学び医学博士になり、鳥取大学大学院医学系研究科等、医学系学部で教鞭をとり、今に至っている。

常に前向きに苦難を乗り越えてきた藤井氏の生き方は、小学校の道徳の教科書でも取り上げられ、また、絵本や書籍として出版され、多くの人に勇気を与えている。そして同様に本講演での、氏の示唆に富み、母校愛に溢れた提言は、中大同窓生に元気を与える内容であった。

講演会で全国を巡り、地方で活躍する多くの優秀な白門同窓に会えたという藤井氏は、講演の最後をこう締めくくった。

"中大は底力を秘めた眠れる獅子。目覚めればきっと活躍する"

【藤井輝明氏の提言】

①直近の司法試験合格者数で中大は東大、一ツ橋、慶応に次いで4位となっているが、東大の法科大学には毎年60人、慶応には50人が中大法科から行っている。中大卒の上位200人が他の大学の法科学院に行っている。この実態が一般に伝わっていない。そのような状況下で、現在の中大法科大学院は定員200名の所、80名しかなくて、定員割れをしている。広報に注力し大学全体のイメージアップ対策が必要。

②都心に作られる新校舎にはそれなりのメ

リットがある。特に看板の法学部などにはそこで頑張ってもらいたい。一方、広大な敷地と空いた校舎を有する多摩キャンパスは、今後、有効活用することによる、新たな可能性を秘めている。

将来、リアモーターカーの駅が、多摩キャンパスの近くの橋本駅を通るようになる。その時は、現在の多摩キャンパスは一等地になる。

③看護、薬学、医療系等、じっくり腰を据えて勉強をやる学部には八王子が最適。「日本医科大学」がかつて中大と組みたいとアプローチしてきた事がある。多摩永山に中大と一緒にあった時のことを想定したキャンパスの準備をしていた。中大はそれに対応しなかったで、現在は早稲田と同大学との提携話が進められている。

他の大学は高齢化社会に対応した学部に着々と着手している。慶応大学は共立薬科大学を吸収し薬学部を創ったが、現在は「東京歯科大学」の吸収計画を進めている。東京歯科大学には市川に市川総合病院を持っていて、この病院が将来、慶応大学付属病院になる。

④建築土木工学科や、かつて、中央工学専門学校として中大が先鞭をつけた「航空宇宙学」など、理系の学部も多摩の環境に合っている。

⑤計画倒れとなっている「健康スポーツ学部」を創れば、体育の教員免許が取りやすくなる。

⑥これからは吸収合併の時代。国立の「東京女子体育大学」を引き取り、女子体育学部を創ったら、今後更に拡大して行く女子スポーツの分野で、中大の名声が大いに上がる。

⑦国立音大や美術系大学を吸収して「芸術学部」を創るのも良い。

(文責：丹田)

藤井輝明氏 紹介

■職歴・経歴

1957年 東京都国立市に生まれる
1982年 中央大学経済学部産業経済学科卒業
1989年 千葉県立衛生短期大学第一看護学科卒業
1991年 筑波大学大学院修士課程修了(健康教育学)
1996年 名古屋大学大学院医学研究科博士課程修了(健康増進科学講座)
飯田女子短期大学専任講師
岐阜医療技術短期大学助教授
熊本大学医学部保健学科看護学専攻教授
鳥取大学大学院医学系研究科教授
2009年 東京大学大学院客員研究員
2011年 中央大学保健体育研究所 医学博士
2021年 岐阜聖徳学園大学看護学部特任教授

■エピソード

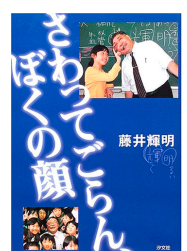
2歳の頃、顔の右半分にふくらみ(難病の一種である血管奇形性の海綿状血管腫)が現れ、そのため幼少の頃からいじめにあい、辛い少年時代を過ごす。医学・看護学・社会福祉学を志し、大学、医療機関、小中高校、企業研修など幅広い領域で小児医療・保健、在宅・高齢者看護・介護、障害者福祉などの視点から専門講義・実習を担当・指導。顔に病気が傷を抱える人の偏見・蔑視をなくすため、自身の体験を基にして全国各地で講演活動や著作活動を行っている。また、行政書士としての経験・知識をいかして、市民のための幅広いカウンセリング・法務相談活動を実践している。

『てるちゃんのかお』(金の星社)を使用して幼児・児童達に「紙芝居」よみかせ活動を全国的に実施。2012年に公開されたアニメ映画「おおかみこどもの雨と雪」のモデルとなる。(作品では容貌に関する問題が取り上げられ、おおかみこどもの姉の姉・雪の優しいボーイフレンドが「藤井君」として登場)。

小学校で2018年から必修の道徳教科書「かがやけみらい」(小学校6年 学校図書)、2019年から必修の中学校3年道徳教科書「とびだそう未来へ(教育出版)」に検定合格して掲載(内容は「いじめ、差別、排除を許さない」という項目)。その他、副読本にも多数掲載される。

■著書

・『てるちゃんのかお』金の星社(2011年)
・『笑顔で生きる—「容貌障害」と闘った五十年』講談社(2011年)
・『笑う顔には福来る』NHK出版(2006年)
・『この顔でよかった—コンプレックスがあるから人は幸せになれる』ダイヤモンド社(2005年)
・『さわってごらん、ほくの顔』汐文社(2004年)



白門同窓生の本

『2040年の未来予測』

成毛眞(著)、1870円(税込)、日経BP刊

<https://nkbp.jp/3pnW6Bb>

「今日」には、これから起こることの萌芽がある。現在を見つめれば、未来の形をつかむことは誰にでもできる——。そう考える著者が、さまざまなデータから導き出される、ありのままの未来を描き出しました。

年金、医療費、天災、監視カメラ、核融合、温暖化、ゲノム編集技術など、あらゆる角度や事象から20年後を予測。ただ知識を得るためだけでなく、読んだ後、俯瞰的に未来を考えられる力もついてくる良書です。

1月の発刊当初から好調で13万部を突破(2021年4月1日現在)、増刷を重ねています！※著者は1979年中央大学商学部卒



第97回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会・本戦

*今回も新型コロナウイルスの影響により、現地での取材は行えず、テレビ放送をもとに記事を掲載させていただきます。

コロナ禍の中で行われた予選会は「無観客開催」という、異例の中行われました。現地での応援は「屋外」なため、可能な感じはしますが、やはり「3蜜」を回避しなくてはならない時世の流れには勝てなかった様です。

また、例年の予選会は「立川基地→市内→昭和記念公園」というルートを使いますが、「立川基地内滑走路周回コース」という、異例の開催となりました。選手たちは日ごろの成果を存分に発揮して1位の順天堂大学に次ぐ2位で通過しました。数年前の「ギリギリ通過」という展開ではなく、予選会



とはいえ正月の本戦での活躍が期待できる結果を出しました。

年が明けて1月2日、往路のスタートが切れ、「予選会2位」の実力を試す時が来ました。我々OBも「今年は行けるぞ」と思いましたが、3区のルーキーの吉居君が予想外のプレーキ。予選会の実力とは異なる「本戦の魔物」に見舞われてしまいました。その後の4区・5区も中大らしい勢いを出すことなく無念の19位。きっと「箱根駅伝」「伝統の中央大学」というプレッシャーに屈してしまったのかもしれない。

往路の「19位」という、どん底の「一斉スタート」にて大手町を目指します。「もうこれ以上落ちることはない。上昇有るのみ！」という良い意味での「吹っ切れた

思い」が選手の心に刺さったのでしょうか？往路の勢いとは全く異なるレース運びに驚きました。復路の6区：区間5位、7区：区間5位、8区：区間7位、9区：区間7位、10区：区間5位と各区で上位に食い込んできました。その結果、何と「復路3位」そして「総合12位」という結果を出すことができました。「往路も復路のような走り(レース運び)」ができれば…「シード権獲得」も可能だったかも知れません。来年の第98回の大会も「予選会」からのスタートにはなりますが、「コロナ禍」が明けて沿道応援ができることを願ってやみません。「後輩たち、頑張れ！」

(広報担当：北村)



第97回東京箱根間往復大会			
復路優勝	青山学院	5:25:33	オープン
復路2位	駒澤大	5:25:35	復路11位
復路3位	中央大	5:28:39	復路12位
復路4位	早稲田大	5:28:47	復路13位
復路5位	創価大	5:28:48	復路14位
復路6位	國學院大	5:29:30	復路15位
復路7位	明治大	5:30:12	復路16位
復路8位	順天堂大	5:30:32	復路17位
復路9位	東洋大	5:30:34	復路18位
復路10位	東海大	5:31:09	復路19位
			復路20位

寄稿～コロナ禍における我が社の報告

2020年度は「コロナ禍」に見舞われ、今までの行動が根底から覆った1年だと思えます。

3月、豪華客船の乗客の「コロナ」発症とそれを取り巻く医療体制の難しさが浮き彫りに出ました。

私の勤務するメディックメディアは主な書籍として、医学生・看護学生向けの「国家試験対策過去問題集(クエスチョンバンク)」を「年次本」として毎年春に刊行しています。

刊行された書籍の多くは大学内の書店や大学/専門学校に入りしている書店外販部が窓口になって販売をしています。「コロナ禍」による「緊急事態宣言発布」に伴い、学生は「自宅待機⇒遠隔授業へ振替」となり、これら書店での購入が物理

的に出来なくなりました。そのため、書店や外商担当の方々による「購入商品のパッケージ化⇒学生の自宅へ送付」といった例年はない対応で学生の手に渡りました。

ここまでは想定内とされていて、ところが、徐々に想定が変わりつつあったのは、最初の緊急事態宣言解除後の7月、即ち、学生さんの「夏休み」に入った頃でした。

医療系の学生さんは学内での「座学」の他に「臨床実習」が授業として課せられています。「臨床実習」の大半は「病院実習」と呼ばれ、医学生・看護学生とでは学ぶ内容は異なりますが「患者さんをベッドサイドで学ぶ」という点では同じです。この大切な「臨床実習」がコロナ禍により軒並み「中止」となり、厚生労働省は緊急特例として「臨床実習ができない場合には学内実習で振り替え可」を発令し学生の「自宅巣ごもり」に拍車がかかりました。

「学内実習」にも限界があり「遠隔授業とのバランス」を保ち自宅での巣ごもり学習の時間が例年になく増えました。

そこで学生さんたちは今まで以上に「国家試験過去問題を解く」という時間が増え、小社のクエスチョンバンクは「他社の過去問題集を購入した学生の2冊目の問題集」

という位置づけで購入の件数が増えました。

商品の購入が例年になく進み「市場での在庫が枯渇」という状況に陥り「緊急増刷」を行い、特にリアル店舗ではなく「Amazon・楽天ブックス・7アンドアイ」といったネット書店での注文が対前年度150%~250%という驚異的な数字をたたき出しました。

この「巣ごもり学習⇒国家試験受験」という流れでも例年になく数値として現れました。特に看護師国家試験においては「必修問題(50問)は絶対評価で80%以上の得点+一般問題・状況設定問題は相対評価で例年ボーダーラインは155点前後」ですが、昨年の必修問題の平均点が45点に対し今年には+2点の47点に、一般問題・状況設定問題は159点と例年になく「高得点化」が顕著になりました。学生さんたちは「巣ごもって国試対策をした」ということが証明された結果となりました。

2021年も「コロナ禍」が継続するのであれば、この傾向は続くと考えられ、小社としては「市場欠品」を起こさないよう刷り部数の決定など「想定分析」を従来にも増して考えなければならぬと思われま

(文責：北村信治)



新型コロナ“禍中”の能楽鑑賞会

記念の20回となる出版白門会年末恒例の「能楽鑑賞会」が、12月12日(土)国立能楽堂で開催された。

この会は毎回天候に恵まれ、過去20回中曇りの日が1回あったくらいで、他はいつも秋晴れだった。オリンピックを見込んで大改装したのであろう千駄ヶ谷駅を出ると、今回も目の前に爽やかな青空が広がっていたが、当日は東京都だけで621名の新型コロナ感染者が発生するという最悪の状況で、諷い方も文楽の黒子のようなマスクをするという誠に異例の舞台だった。



当日の演目は過去19回の出版白門の能楽鑑賞会で一度もなかった演目で、狂言は「猿聲」、能は「舍利」。「猿聲」はまるで映画の「猿の惑星」のように扮装した8匹の猿たちの舞台上での「猿語」での婚入り儀式が何とも言えずSFチックで、こんな狂言もあるのだと興味深く鑑賞した。「舍利」は前半の動きがほとんどない展開から、後半は牙舍利を盗んだ足疾鬼を韋駄天が追いかける場面に転換され、天上と地上をまるで戦闘機の空中戦のように駆け巡るスペクタクルな設定で、これまた時空を超える能の面白い一面を遺憾なく堪能できた。

コロナ禍の中、この会に参加することためらいもあったが、思い切って参加したことで、二つのユニークな演目に出会え、



「来てみれば来てよかりしよ梅椿」(星野立子)の心境。余談だがコロナ禍の中の楽曲関係のイベント

の中では、「能楽鑑賞」が一番感染予防対策に合ったイベントではないかと思った。観客は声を出さないし、演者も、全員ではないが、面というマスクをしている。

動きが少ないので、呼気による離れた場所からの飛沫の影響も少ない。

2020年12月 丹田公和

出版白門会情報共有について

出版白門会では昨年から「コロナ禍」をきっかけに徐々に「ペーパーレス化」を進める予定です。

年2回発行している機関紙「出版白門」については近年、PDF ファイルをホームページに掲載しており、紙媒体とデジタル媒体の2種を皆様に提供しております。

年初の「新年会/新春講演会」「街歩き企画」「定期総会」「能楽鑑賞会」といったご案内は従来は葉書や「出版白門」送付時に同封そして「会員グループメール」を活用して参りました。

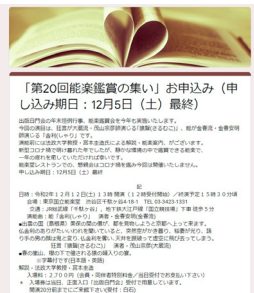
徐々にではありますが、会員の皆様へのご案内ご連絡に関しては「会員グループメール」を中心に活用し、参加申し込みに関しては「Google Forms」(下記の画像参考)を利用する予定です。

都度指定された「Google Forms」のURLをクリックしてご登録いただくだけで従来の「返信用はがき」に相当することが可能になります。

つきましては、会員の皆様の「メールアドレス」「携帯番号(会からご連絡する際に活用)」「ご住所」の情報を「一番新しいデータ」として(最速では7月の定期総会向け返信用はがき)お知らせください。

特に「メールアドレス」については、お勤め先のご定年で「旧勤務先アドレスのまま」の会員の方もいらっしゃる中で、「ご自宅アドレス」「スマホで見れるアドレス」などの新しい情報をお知らせください。「7月の定期総会返信用はがき」前に新しいデータを会にお知らせいただくときには、会の代表アドレス pub.hakumon@gmail.com に送信ください。

(広報担当:北村)



編集後記

.....

今回の「出版白門40号」のどのページにも「コロナ禍」というキーワードが出ています。100年前にも今回の「コロナ」に似た伝染病が世界に蔓延しました。そのころの情報は多くは残っていないので「どのようにならしたか?終息後の世界はどう変わったか?」について先人から聞きたいものです。

「コロナ禍」が終息して2021年度は「Afterコロナ」で出版白門会の様々な企画を幹事会で検討…こんな思いで月1回の幹事会を運営していますが、どうやら「Withコロナ」ということでこの1年も進むようです。学生さんは昨年、「入学式・卒業式」が中止になりましたが今年は幸うじて開催に漕ぎつけましたが、「保護者の列席はNG」と「喜びの分かち合い」ができないという状況。

一生に1回のイベントを「新しい方法(保護者は遠隔動画配信参加)」で開催。「Withコロナ」の中で高校2年の息子は夏に「修学旅行」が控えていますが果たして開催できるのだろうか(2020年度の修学旅行は中止)。

PCで「修学旅行に行くところを現地のガイドさんが動画共有紹介」で「修学旅行」になった企画でも行われかねない…そんな今日です。(北村)

告知版

■会費還元について

2020年度は「コロナ禍」により、出版白門会の活動にも大きく影響を受けました。例年行っている「定期総会」は紙面決議に変更、「街歩き企画」は中止、つい先日の「新年会/新春講演会」もオンライン開催となりました。多くの従来の対面での企画を運営することができず、幹事会にて検討した結果「2020年度会費を納めた会員の方々に会費の還元」を行うことを決定いたしました。前回の「出版白門39号」の発行に合わせて「¥2,000の図書カード」で還元させていただきました。「出版白門39号」発行から2021年3月末日までの間に「会費を納めていただいた会員の皆様」には今回、同封させていただきましたので、ご確認ください。

■①出版白門会ホームページのご案内

アドレスは <http://pub-hakumon.jimdo.com/> です。Google や Yahoo といった検索サイトで「出版白門会」を検索すると上位にヒットしますので、そこからのアクセスも可能です。

■②出版白門会事務局へのご連絡は下記メールアドレスをご利用ください。

E-mail:pub.hakumon@gmail.com です。

■会費について

2020年度は未曾有の「コロナ禍」に見舞われ、先行き不透明ながら、会員の皆様には例年通りの会費のお支払いをお願いさせていただきました。しかしながら、年間を通じて出版白門会としての十分な活動を行うことができませんでした。そのため、幹事会にて議論を重ね、会長との相談の上、「2020年度の会費をお支払いいただいた会員の皆様へ還元」という形をとらせていただきました。年が明けて2021年度、「アフターコロナ」として会の活動を再開しようとした矢先に「2度目の緊急事態宣言発表」がなされ、この出版白門40号が皆様のお手元に着くころには「まん延防止等重点措置」が取られ3度目の緊急事態宣言発表も時間の問題という事態になりました。この点を踏まえ、2021年度の会費に関しては7月の定期総会(紙上開催)にて「コロナ(を含む流行疾病等)」による会の活動停滞時における会費の在り方」について検討する予定です。そのため、例年は春の会報送付時に同封しておりました「振込用紙」については、同封を見合わせ、秋に送付いたします会報にてお知らせさせていただきますので、何卒ご容赦ください。